一般質問

いじめ防止の取り組みについて

湖南 WAKU^2 プロジェクト●**柴田　栄一** 議員

湖南市いじめ防止対策基本方針について問う。

問　いじめの現状と防止対策は。

答　現状については、増加傾向となっていますが積極的な認知や報告する体制づくりが出来ているととらえています。いじめ防止については教育相談週間や児童生徒にアンケートの実施を定期的に行っております。

いじめを根絶させる施策について問う。

問　いじめられている子どもが安心してSOSの声を届けることができる仕組みの検討は。

答　子どもたちのSOSを早期にキャッチするためにも、その方法は広くあるべきだと考えます。今年度のいじめ問題対策連絡協議会でもこの点については議論していきたいと考えます。

問　子どもの学びプロジェクトの取り組みと、進捗状況は。

答　今年度から、家庭学習のさらなる充実のため、タブレットを持ち帰って学習を進めたり、児童生徒や保護者へ家庭学習の手引きを配布・説明したりするなど、子どもたち自ら主体的に学習に取り組めるような工夫を行っているところです。

問　外国にルーツのある子どもへの対応と、具体的な取り組みは。

答　本市の外国にルーツのある児童生徒の国籍は多国籍化しつつあります。多言語化という課題に対応するため、日本語指導教員や通訳がICT機器や音声通訳機器を工夫して利用するなどし、可能な限りきめ細やかな対応を行っています。

福祉政策について

令和会●**大島　正秀** 議員

問　ホリデースクールについて

答　事業の廃止にあたり、現状を踏まえた事業の必要性の評価や今後の展開などについて、保護者会をはじめ、関係の皆様との話し合いやご説明の機会は持っておりません。このことは、極めて不適切な進め方であったと言わざるを得ず、このことに対しまして関係の皆様に深くお詫び申し上げます。

問　今後この事業を復活する計画はありますか。

答　障害者総合支援法や児童福祉法によるサービスの体系が整備され、事業所の増加やホリデースクールの役割を補完できるようなサービスもあること、創設当時よりも事業の必要性が低下していると考えられることも含めて事業の評価と検証を行い、今後の新たな事業の展開も見据え検討する必要があると考えております。市民憲章には「子どもが健やかに育ち、障がい者や老人をはじめ、だれもが安心して暮らせるまちづくり」という理念を掲げ、総合計画では「ほっとする暮らしづくり」をめざしており、これら根底には、「共生社会づくり」というキーワードがあるものと考えており、障がいのある子も人生を通じて同じ地域社会の一員として共に暮らせるまちづくりにつながる取り組みが大切になるのではないかと考えております。保護者会、ボランティアとして関わっていただいた皆様とも、何がよいのか話し合いながら進めてまいります。